

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフがいろいろな研修に参加し理念の大切さを知り、かつき苑全体の理念に加え、グループホームかつき苑としての理念を、スタッフ全員で考え20年11月に作り上げた。	○	自分たちで作り上げたのだから一人ひとり理念の意味を理解し心に刻み生活者を支えていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週一回の朝礼の時かつき苑の理念を唱和し、苑長より毎週ごとに生活者を支える為の方針を文章にして、話をして頂き、理解を深めている	○	笑顔と非審判的態度を徹底するよう、スタッフ全員に指導している。全スタッフが実践しているとは言い難い状況ではあるが、日常の業務内の根気強い指導により、日に日に改善が見られるようになった。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームの理念ができた時点で、苑便りと一緒に家族に配布をし、推進会議の時も、理念が出来たことを説明する		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	今年の一月、敷地内にホールが完成し、その場所を24時間地域サポートセンターとして地域の方にも気軽に利用していただけるよう、地域の方に配布をする		夏祭りなど声掛けをしている。地域の空き缶ひろい、草むしりなどの参加もおこなっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、地元の小学生の職場体験を受け入れ、交流をしている。職場体験後、顔を見せに来てくださったたりして、生活者が喜ばれている。又地域の空き缶拾いや、清掃活動に参加している		かつき苑の相談役の方が来年度老人会長をされることで、老人会の方たちとも交流会を行なっていきたい
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護相談も受け付けている事を地域に向けてアピールしている		一人暮らしをされている方へ苑の生活者と一緒に訪問をし、話などして、もし歌うことが好きなら苑のカラオケがある事などお話し、楽しんでいただきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価がある事を全員に説明し、出来ているところ、出来ていないところをどう改善するかを話し合った	○	ユニットごとに早い時期に改善計画書を作成し、改善に向けてのスケジュールを明確にしたい。また、適切に実践できているか、会議の場で確認していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見は切実な意見です。ご家族の立場になり、真剣に取り組んでいます	○	一人ひとりの方の意見を大切に受け止め、これから先も取り組んで行き、今後の支援に活かして行きたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に役場の方も参加され、苑での取り組んでいる事等質問されたり、苑より質問をさせていただき、情報交換を行い、質の向上に努めています	○	月一回苑便りを町役場に送付し、苑の近況を報告している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を行っている生活者が2名いらっしゃいます。管理はスタッフではなく、家族が行っています。		心が豊かになっていただけるようなお手伝いをしていきたい
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、スタッフのストレスで虐待が行われないよう、話し合いの場を作ったり、カンファレンスで自分の思いを話したりしている。又スタッフの親睦会を行い、相談しやすい雰囲気作りを行っている		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際に行っていることなどを十分にお話し、理解、納得をした上で契約をしていただいている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い意見を聴くようにしている、又意見箱を設置し、生活者、ご家族様が苑に対して意見を述べられるようにしている	○	意見箱を設置しているが、なかなか意見を入れてもらっていません。直接、気楽に話していただけるような雰囲気作りを行って行きたい。また、出た苦情はすみやかに苑長へ報告し、朝礼を通し全職員に伝達、対応の検討を行っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族様が面会に来られた時、日頃の生活振りを知っていただけるように、担当者が行事や変化があった時など、面会ノートに記入している。又、状態に変化があった時は、その都度ご家族様に連絡を行っている	○	近況報告を3ヶ月に1回、家族、キーパーソンの方に送っています。今後、写真も一緒に同封したいと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を実施し、ご家族様の意見を伺う機会を作っているが、なかなか直接の声が聴けません。苦情処理委員会を作り出来る限りの改善とご家族様への十分な説明に心がけていきます	○	近況報告の中にご家族様の意見を書いていただく欄を作りいろいろな意見を出していただきたいと思っています
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内のミーティング、リーダーミーティングを月に一度行い、全職員が意見を述べる機会を作り、施設の運営に反映されている	○	ミーティングの前に、スタッフ全員に意見や提案が無いかな話をしている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在、遅出勤務を作り、生活者の方が夕食をゆっくりと食べて頂けるよう配慮している	○	必要な時間に出勤していただけるような方の確保を行っている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、グループホーム内に止め、移動がある場合は、生活者に十分に話をし納得していただいている		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用においては、年齢、性別にとどまらず、障害者においても受け入れを可能にしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼において生活者の人権尊重の話を行い、理解を深めている		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会に所属し職員全員が研修に参加できる機会を作っている。また、年数回、外部講師による全体研修や、毎週朝礼にて全体研修を行っている。	○	プリセプター制は一定の効果을あげているようである。プリセプトする側も頼りにされることが自信に繋がりモチベーションがあがっている。今後もこのような取り組みを継続したい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加入し全国大会参加などネットワーク作りを行い、他の施設からの情報収集に努めている		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	懇親会等を開き、施設以外の場所での職員間の交流の場を設けている		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	認知症ケア専門士の資格取得等の職員の技術、知識の向上に積極的支援を行っている		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の際はご家族様と面談、本人からも聞き取りを行い、センター方式を使い本人目線でアセスメントを行っている		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテーク面接を通して、ラポール構築を図る努力をしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている		○	サービス利用について、共生ホームも含め、24 時間相談に応じていきたい。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	導入面接や担当者会議などを通して得た情報を 元に“馴染み”のものを壊さないように配慮して いる。	○	環境変化によるダメージの軽減を視野に情報の 共有をすすめている。
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	本人様の得意なことを発揮できるシーンを見出 すプランを考えている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来苑された際、また、電話による近況報告を通し て、一緒に本人様の幸せを考える機会をつくっ ている。	○	サービス担当者会議を通して、スタッフ、家族、 本人三者で、一緒に問題に取り組みたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	本人様や、家族からの談話のなかで、その関係 や背景を聴き、必要であれば介入を行なってい る。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	本人様の意向を聴き、可能な限り、馴染みの方 と連絡がとれるよう支援している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	16時より毎日生活者全員で今日の日付、曜日、 その後体操など楽しく過ごす。話が解からないよ うな時は、職員が中に入って説明する	○	雨戸開けとか出来ない生活者に出来る方が教 えてくださったりしている
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	全員死亡退所のため、継続的な関わりが難し い。	○	今後は退所された方のところにも必要のある場 合、スタッフが訪問し、関係が切れないように努 めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン会議を行い、普段から生活者と深く関わる職員一人ひとりから情報収集を行っている	○	生活者本人や、その家族等も参加出来るようにしていきたい
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の生活歴等の聞き取りはもちろん、入所後生活者もしくはその家族から必要に応じて情報収集を行っている		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員で意見を出し合い出来るだけ生活者を多面的に理解することが出来るように努めている。又生活者とのコミュニケーションを大切に、心身の状態把握に努めている		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活者本人、ご家族、介護職員、看護職員それぞれの視点から意見をもらい、ケアプラン会議を通して介護計画を作成している	○	家族や本人の意向をプランに反映させるため、サービス担当者会議を行う。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回介護計画の見直しを行い、新たなニーズの把握や計画の方向性にズレは無いかが検討している。又、生活者に状態の変化があれば、その都度見直しを行っている	○	見直し以前に対応できない変化が生じた場合、家族に連絡し、意向を確認した上で、可能な限り本人にも意向を確認、プランに反映させる。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活者一人ひとりの状態を個人記録に書き毎日の状態の変化の把握に努めている。又、心の変化も記録に残し、生活者のニーズを捉えるヒントにしている	○	必要に応じてセンター方式も導入し、よりの確なニーズ把握に努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係医療機関との連携も密にとっており、生活者の状態の変化に対して柔軟に対応することが出来ている。又、時には、生活者の自宅まで連れて行ったり、医療機関への付き添いを行っている		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	苑での行事やその他の場面においても、地域のボランティアの方に来ていただき、歌や踊り、太鼓などを披露していただいている。その他に、地域の小学校の職場体験を受け入れ、交流を図っている		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協会や、介護保険の事業者連絡協議会に加入し研修会を通して、情報の収集やネットワーク作りを行っている。又、生活者の要望に応じて多様な医療機関の受診等を行っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在継続的に利用は行っていないが必要に応じて連絡を行っている		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	より充実した医療機関との連携の為、基本的には指定の協力医療機関で受療していただいているが、生活者やご家族の強い希望があれば、希望の病院等をかかりつけにされることも可能である		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関で対応できない場合には必要に応じて他の医療機関を受診していただいております。診断、治療、相談を行っている		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設の看護師が利用者の健康管理、医療機関との連絡等を担当している。又、勤務時間外においても、必要に応じて、介護職員が電話等で相談をすることもある		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は賓会に病院に出向き生活者との関係を切ることなく生活者が施設に帰って来やすいよう努めている、又、賓会に出向くことで、情報交換を行い状態把握に努めている		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関しては、早い段階で本人やご家族の意思を確認している。状態に関しては必要に応じて、その都度Drより説明をしてもらっている		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期では、生活者がより安楽に過ごせるよう努め、状態の変化には常に気を配り、Drとも24時間連絡を取れる体制を作っている		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活者自身が住み替えに対して納得していることが重要と考え住み替えの際には十分な説明を心がけている。また施設を退所される時には情報の提供を行っている		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的な事ですが、生活者を一人の年長者と考え、相手を敬う気持ちを持って声掛けを行っている。又同じ事を繰り返し言われたり、言葉が聞き取りにくい生活者に対しても、時間をゆっくりと取り、その思いに共感できるように努めている	○	個人記録は各ユニットの鍵付きの引き出しに保管、家族には気軽に見ていただくと同時に、プライバシーに配慮している。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話の中で、生活者が理解を示していないと感じた時には、繰り返し話したり、表現を変えたり、近づいたりしながら、理解しやすいように伝える工夫を行っている。生活者から何か訴えがある時には手を止めゆっくりと話を聴くように心がけ	○	認知症がかなり進んである方にも、二択やイエス/ノーで答えられる質問をするなどして、本人の意向を反映できるよう声掛けに工夫している。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援の場面において、生活者がOKしないことは行わない。人や時間、又は場所を変えて声掛けなどを行う工夫をする。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば希望のお店等を利用していただいたり、ご家族にカットしてもらったりしています。朝には、声掛けを行い、くしやタオルを手渡す等支援を行いながら、出来るだけ自分で顔を洗ったり、髪を解いたりしてもらっています		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえは、生活者と一緒に行っている。又、生活者との関わりの中で、一人ひとりの好みを知り、生活者の好みの物や、季節に合わせたメニューを取り入れている		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等は一緒に買い物に出かけるなどして対応している。喫煙者は現在3名おり、火気管理に十分配慮しながら楽しんでもらっている		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在、昼間にオムツを使用している生活者はいない。出来るだけオムツを使用しないために、必要に応じて排尿パターンを知るための、排泄シートを使っている		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期的な通院や、外出など生活者のリズムをそこなわないように、生活のリズムに合わせて入浴してもらおうよう心がけている	○	入浴予定表をつくり、不潔にならないよう、週2～3回入って頂くようにしています。入浴時間は決めず、その日の状況、生活者の希望に合わせています。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は生活者に任せています。早く休まれる方や21時くらいまでテレビを見て過ごされる方など様々です。日中お昼寝される方には、夜間眠れなくなる程度で声掛け等を行うように配慮している		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえや、トレイ拭き、掃除等生活者の負担にならない範囲で役割を持ってもらうようにしている。中には苑の畑に作物を植え管理されている方もいる		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活者の能力に応じ、大きい金額ではないが、管理されている方もいる。お金を所持していない生活者に対しても一時的に立替を行ったりして、買い物出来るようにしている		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週、火木曜日には苑のバスにて外出の機会を設けている。又そのほかに希望があれば外出の支援を行っている	○	散歩やウインドウショッピングなども不定期ながら行っている。全員にその機会があるようにしつつ、なるべく少人数で行い、個別の希望に添えるようにしている。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の外出については、希望があれば、ご家族と調整し、ご家族や、職員が付き添いながら、支援している	○	家族の方と協力して希望をかなえてあげたい
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、気軽に利用できるようにしている。必要に応じ、ダイヤルしたり、お金を入れたり支援を行っている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑された方とは職員も積極的にコミュニケーションをとり、顔見知りになる事で、来やすい雰囲気を作るよう心がけている		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が必要な方はいませんが、出来るだけ身体拘束を行わない為に、講習会に参加したりして理解を深めている		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来るだけ鍵を掛けないために、玄関にセンサーを取り付け、センサーがなると、職員が確認をするようにしている	○	基本的に本人様の好きな時にベランダより外に出ていただき(ベランダは常時開いている)スタッフ付き添いで見守りをおこなっている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	歩行時にふらつき見られる方には必ず付き添うようにしている。夜間は最低一時間に一回の巡回を行い、必要であれば声掛けし、トイレの付き添い等も行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活者が必要なもので、危険がある場合は、本人や、ご家族と話し合い、職員が預かる等しながら、生活者が必要に応じて、すぐに使用出来るようにしている		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災のための避難訓練を2回/年行っている。又、転倒事故防止のために、必要に応じて、居室に畳をひいたり、布団で休んでもらったりしている		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作り緊急事態発生時はそれに従い対応をするようにしている		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	生活者も参加する非難訓練を年2回行っており、職員も生活者も非難時の動きを確認している	○	地域の方にも協力していただければ救出などが困難なため、こちらからの積極的な声掛けをしていく。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的に近況報告を、ご家族に送ったり、電話で状況を報告して常に生活者の事を知ってもらうようにしている。医療的な事柄については、Drから直接説明を行ってもらっている		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康チェックを行い、小さな変化もすぐにDrに報告し対応してもらっている		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表があり利用者がどのような薬を服用しているか確認が出来るようにしている		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便の状態は常にDrに報告し、Drの指示に基づいて、緩下剤の調整や、水分摂取、腹部マッサージ等を行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	生活者の口腔内の状態、心身の状態に応じ、うがいや、歯磨き、義歯清掃等の支援を行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一回の食事に来るだけその人が食べきる量を提供するように努めている。状態に応じ形態を工夫するようにしている。水分に関しては必要であれば、水分摂取表を作り水分確保に努めている		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰ってきたら、うがい、手洗いを徹底している。訪問者に対しては、手洗い、手指消毒を呼びかけている	○	布団、PTイレなどは天気の良い日に干して、疥癬などが発生しないよう努めている。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	2、3日で使い切る分を購入するようにし、長持ちしない物に関しては冷凍するなどして対応している。買い物の状況に応じて献立を組み替えたりしている		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは花を飾ったりして親しみやすい空間作りを心がけている		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、絵や、花を飾り、季節感を感じられるように配慮している		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場所には、ソファ等もあり、生活者が思い思いの時間を過ごせるようにしている。食堂では、生活者同士が不快な思いをしないように席を決めている		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族との写真などを飾り、馴染みの空間を作っている。家具の配置等は生活者に相談しながら、本人が使いやすい位置に配置するようにしている	○	家から写真なども持ってきていただいている。生活者の心理的安定に効果があがっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日温度、湿度をチェックし、それに合わせて空調の調節を行っている。毎日、2回以上換気を行い、新鮮な空気を取り入れている		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活者が必要な所には、手すりを設置し、安全に歩行できるようにしている。歩行時にはあえて声を掛けずに安全を確保できる位置から見守ることもある		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはトイレと解かる配慮をしている。又、すぐに手を出すのではなく、見守り、声掛けをしながら、出来ないことに、さりげなく支援できるように努めている		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	生活者が自分で中庭に行くことができるので、散歩をされたり、日光浴をされたりしている。歩行が不安定な人には見守りを行っている		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない